



米田香代子さん

- 所属部署：地域連携課
- 役 職：看護師長

地域連携課に看護師が勤務するのは私が初めてです。患者様の受け入れ、終末期の入院退院支援などへの介入を行い、専門的な知識や経験を生かし難しいケースにも取り組んでいきたいと思っています。

また、地域の皆様が安心して暮らせるよう、保健所や行政機関との関わりも大事にしていきたいと考えております。

地域連携課は地域の医療機関、介護事業所、施設などと連携し、患者様のご紹介の窓口となっております。

又、入院患者様の退院支援、調整、医療福祉に関する相談など、さまざまな業務を担っております。



吉本希美香さん

- 所属部署：外来
- 役 職：副師長

同世代の患者様であれば、少し近い距離感で接し、落ち込みがちな気持ちのサポートをする。クリニック様から紹介でいらっしゃった患者様なら、当院を「第二のかかりつけ医」と思っていただけよう心を尽くす。

こうしたケアの小さな積み重ねが、地域の医療をより良くすることにつながれば、と考えております。

外科外来を受診する患者様の中にはガンを患う方もいらっしゃいます。一口にガンと言っても患者様を取り巻く状況はさまざまです。我々看護師の仕事の一つは、そうした患者様一人一人に向き合っていただけよう接することです。



今川裕二さん

- 所属部署：訪問看護ステーション
- 役 職：主任
- 趣 味：絵画

「再び仕事に行けるようになった」など、目標を達成できた時は本人やご家族様と同じくらい、大きな喜びを感じます。

今年に入ってからは新型コロナウイルス感染症への配慮が欠かせないようになりました。現在もマスクや手指消毒など万全の感染予防を心がけながら、患者様のご自宅を訪問しています。幸い、感染が不安だからリハビリを中断する、という方はほとんどいないので、これからも患者様のお力になれるよう、日々、励んでいきます。

私は現在、訪問看護ステーションに所属して、在宅の患者様にリハビリを提供するお仕事をしています。患者様のご自宅に伺って生活の活性化のために機能訓練を含めて支援していくのが主な業務です。

お仕事をしながら、一番やりがいを感じるのは、患者様の生活機能が改善された時です。「自転車に乗れるようになった」

縁

ありがとうおかげさま 嬉しい縁を医療でつなぐ

NO.4
季刊誌



医療法人一祐会 理事長 藤本明久

冬に始まった新型コロナウイルス感染症を取り巻く状況は、春、夏を経て秋になった今も依然として予断を許さない状況です。当院では6月末まで禁止していた入院患者様への面会を条件付きではあるものの、7月1日から緩和していましたが、夏の全国的な感染者の増加を受け、7月30日から再度原則禁止にいたしました。

メディアではさまざまな情報が流れているものの、当院のように妊婦の方や高齢の患者様が多い病院においては、治療薬やワクチンが開発されていない以上、用心に用心を重ねるべきだと考えております。とはいえ、感染症対策が奏功している実感もあります。事実、医療機関を含む各方面での感染症対策が強化されたのち、大阪府の感染者数は減少傾向に転じました。

またインフルエンザなどのアウトブレイクが起きる前というのは、毎日のように院内のそこかしこで発熱する人が出てくるものです。確かに新型コロナウイルス感染症は無症状のケースも考慮する必要があるため正確なことは言えません。しかし当院のようにハイリスクな患者様が多い環境でそういった前兆が見られないということは、現状、院内の感染症対策は成果を挙げていると言えるでしょう。

決定的な解決策が見えてこない限り、今はこうした小さな成果を積み上げつつ、自分たちができることをやるほか手立てはないと考えます。

たとえば当院の居宅介護支援事業所では利用者様との接触頻度や接触時間を縮小するために、事務業務のIT化やリモートでのヒアリングなどの施策を講じています。その他、迅速かつ的確な検査体制の構築、職員の体調のケア、試験的なりリモート面会の導入なども行ってきました。

今後は電話などによる薬剤処方や、PC等でのビデオ通話を利用したオンライン診療、院内でのオンライン会議の活用など、より状況に合わせた施策を採用する可能性もあるかもしれません。

今回の感染症問題が、この先どのような展開を見るかは誰もわかりません。我々医療従事者にできるのは、「必要とされるものは残る」と信じて、状況に適応できるよう変化し続けることだけだと考えます。地域医療を担う一病院として、引き続き力を尽くしてまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いたします。

+ 藤本病院
ichiyukai Fujimoto Hospital

〒572-0838 大阪府寝屋川市八坂町2番3号
京阪本線 寝屋川市駅 徒歩5分

午前診療

●受付8:00~11:45 ●診療時間9:00~

午後診療

午後診は予約制です(一部除く)
詳しくはお問い合わせください。

夜間診 月・水・金

●受付17:00~19:45 ●診療時間18:00~

072-824-1212

関連施設

- サービス付き高齢者向け住宅シンフォニー
- 介護老人保健施設ハーモニー
- 居宅介護支援事業所
- 訪問看護ステーション



総合診療外科 上山泰男

VOICE

今年8月から一祐会、藤本病院に勤務いたしております、上山(かみやま)泰男です。担当は総合診療外科です。

藤本病院の先代の理事長先生、奥様には30年前から関西医科大学、外科学教室に在職中から何かとお世話になっておりました。関西医科を大学定年退職後、徳洲会に入りまして、主に奄美の離島で外科医として、また総合診療の修行を積みました。

奄美での修行のことを少し書かせていただきますと、奄美群島は薩摩藩が攻めてくるまでは、琉球王朝に属していました。明治になるまで琉球と薩摩の二重支配でした。

奄美地方の島々の言語は方言ではなくユネスコが認めた独立言語です。個々の島で異なります。一つの島の中でも言葉が異なり、言葉使いでどの集落の出身かがわかります。余談になりますが同じように日本の民族語として知られるアイヌ語が失われたのは陸続きのためだと思います。

日本復帰が遅れ、経済的弱者ですが、日本古来の文化の継承者です。日常の中に三糸(サンシン)に合わせた民謡と踊りがあり、伝統的な民間医療薬が店で売られています。

ドクヘリが導入されたのは最近で、それまでは急患は島の消防署が鹿児島県知事に依頼して沖縄県知事を通して自衛隊ヘリに搬送してもらいました。病院ではできることは手術を含めて、全科に対応していました。

医者知識、能力と関係なくやれる範囲で対応するしかなかったのです。できることしかできませんでしたが、何とか切り抜けてきた印象が強いです。

私と医師との接点を申しますと、約75年前の私の子供の頃の思い出です。熱が出たりすると開業医の先生がオートバイで夜中でも応診にきてくれました。発熱が続いた時、母に抱かれ、肩と背中を抱きしめられ、胸腔穿刺を無麻酔で受けました。その時のきれいな薄い黄色の胸水は、今でもはっきりと覚えております。

また、父が高熱と黄疸で苦しんだ時、往診後、急いで市民病院に紹介してくれました。ここの受け持ちの内科の女医さんは、えくぼのあるきれいな方でした。

二人の先生の言われた言葉は残念ながら忘れてしまいましたが、一生懸命、熱心な対応、優しい対応をしていただいていると肌で感じたことが今でも強く心に残っています。医師を志したのもこの先生方のようになりたかったのかもしれない。



子供の頃に出会った二人の医師の一生懸命、熱心な対応、優しい対応が医師を志したきっかけになったのかもしれない。

これまで外科医として、病院管理者として、大小さまざまな病院でいろいろな状況の中で仕事をさせていただききました。一祐会グループには、急性期病院、介護老人保健施設、サービス付き高齢者住宅もありますのでこれまでの経験を少しでも生かせればと願っています。

これまで私が大切に、心がけてきたことを申します。

まず、物心つく前からでしょうか。母に

“人に後ろ指をさされるようなことはするな”

と言われたことです。母は薩摩のおじよとして教育を受けました。

西郷さんの生き方を話してくれました。

大学卒業後、日本で初めて肝臓切除や膵臓切除をした京都大学の本庄外科に入局し、倉敷中央病院に赴任した本庄先生に年賀状を差し上げたところお返事は

“与えられたところでBESTを尽くしなさい”

でした。母の言葉、本庄先生のお言葉、

この二つはいつも心にとめて生きてきました。

ピッツバーグで肝臓移植の臨床を学んでいた時、STARZL先生には

“BE CAREFUL OF EVERYTHING”

と教えていただきました。

対応困難な患者さんに遭遇したときは、

メリーランド大学SHOCK TRAUMA CENTERの回診の時、

DIRECTORのCOWLEY先生の言われたことをいつも思い出します。

内科医、外科医、救命救急医、脳外科医などが治療法で何を選択していくかについていろいろ議論していた時に、

“わからないときは臨床DATAを正常化(NORMALIZE)するように”

と言われたことです。

これまで大小さまざまな病院で、外科医として、病院管理者として、いろいろな状況の中、仕事をさせていただきました。

自分の過去の仕事の評価は、未熟の言葉が当てはまります。

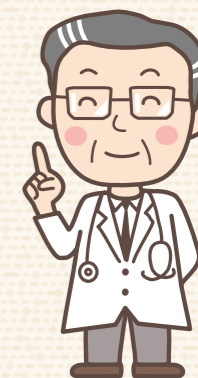
過去は変えられないと自分を納得させてきました。

少しは誰かのお役に立ったのかな、とあとで気が付く時にほっとします。

一祐会グループには、急性期病院、介護老人保健施設、サービス付き高齢者住宅もありますのでこれまでの経験を少しでも生かせればと願っています。

寝屋川医師会の先生方にはこれからも何かとお世話になると思います。

どうかご指導、ご援助をお願い申し上げます。



内視鏡センター紹介

2016年12月、元眼科外来の跡地に内視鏡センターを開設して3年半、外来工事のため、1年ほどは地下で続け、2019年10月より現施設で内視鏡検査を行っています。狭いながらも受付、更衣室、待合室、リカバリールーム、診察室を備え、2室の検査室は30㎡を超えており、日本消化器内視鏡学会の指導施設の規格にも十分合致できる施設です。

患者様及び医療従事者の導線を考えた設計は、医師・看護師・設計士さんと何度も打合せをして決めました。ソフト面では日本消化器内視鏡学会技師の資格を持つ看護師は6名おり、常勤の日本内視鏡学会指導医1名、専門医2名と非常勤医師3名で検査を施行しております。



更衣室 (2部屋)



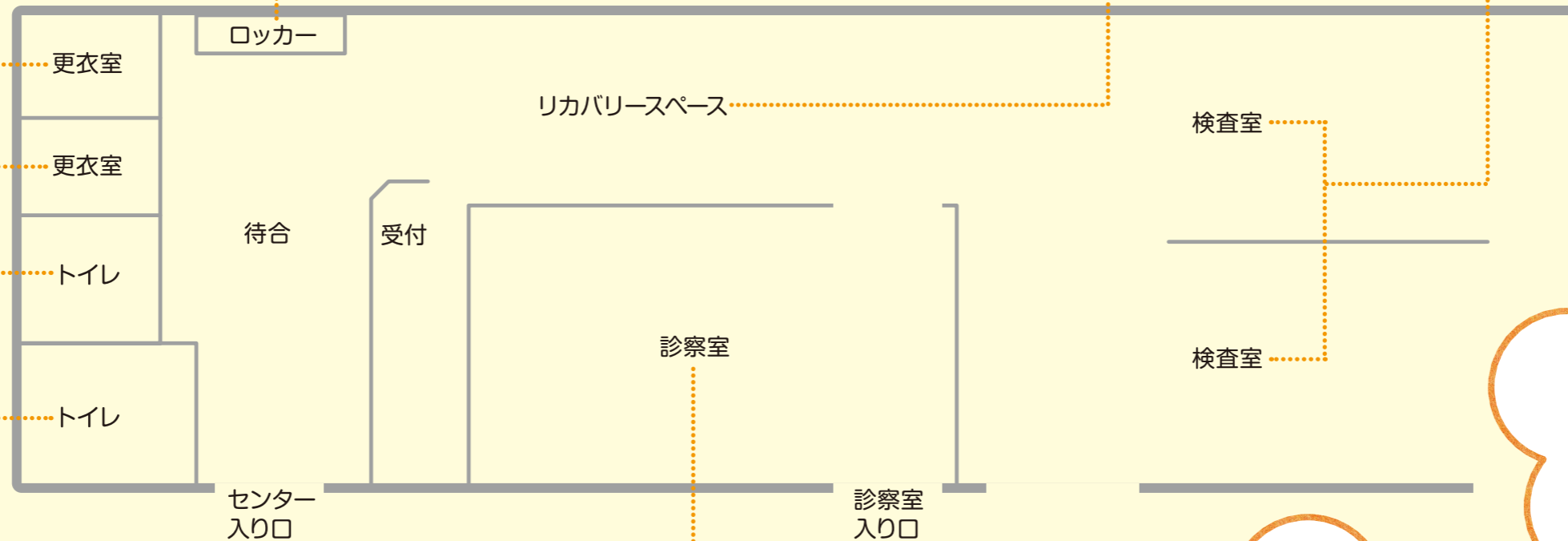
待合 (貴重品ロッカー)



リカバリースペース (3席)



検査室 (2部屋)



専用トイレ (2室)



診察室

ナースエイド・クラークの協力を得て患者様に優しい内視鏡検査・内視鏡治療を目指しています。



女性スタッフ自身は、自分たちが気持ちよく検診を受けられることを考えて患者様と対応しています。

病院・地域の介護事業所・地域団体等と連携して、 地域包括ケアシステムの中核組織として地域に根ざした相談援助を行っていく。

一祐会 藤本病院ホームページより



長友誠さん

居宅介護支援事業所で、管理者兼ケアマネージャーとして働いています。当事業所は現在5名のCMが在籍しており、医療機関併設の事業所として医療ニーズの高い、従来であれば在宅生活が困難な患者様も安心してご自宅で療養ができるように「橋渡し」の役割を担っています。

新型コロナウイルス感染症の心配がまだまだ続く中、私共が担う業務にも影響が出ています。「家に閉じこもることでフレイルに陥る患者様がいないか」、また「普段は訪問して確認できることも自粛要請等により出来なくなるのでは」という危機感を感じ、対面援助が主となる業態上、今後は世間で推奨されているICTを活用し、リモートワークに取り組む必要があると感じています。

また記録媒体でも大きな変革が必要だと考えています。介護の世界はデジタル化が遅れており、

未だにケアプランなどもペーパーを使ってやり取りすることが少なくありません。

有事に強い事業所に変わるのが求められる中、ペーパーレス化に向けて、今はまさに現場の声を聞きながら方向性を模索中です。



医療法人一祐会 関連施設

サービス付き高齢者向け住宅 シンフォニー

- 全32室 (内2人部屋2室)

〒572-0840 大阪府寝屋川市太秦桜が丘32-36
TEL:072-396-9088 FAX:072-396-9087

介護老人保健施設ハーモニー

- 通所リハビリ ●短期入所
- 訪問リハビリテーション ●日・祝営業

〒572-0801 大阪府寝屋川市寝屋2丁目14-9
TEL:072-824-2090 FAX:072-824-2094
JR学研都市線「星田」駅 徒歩3分

居宅介護支援事業所

- 営業時間 月～金 9:00～16:30
- 土 9:00～12:00

〒572-0838 寝屋川市八坂町13-18
TEL:072-811-7010(直通) FAX:072-822-3400

訪問看護ステーション

- 営業時間 月～金 8:30～17:00
- 土 8:30～12:15

〒572-0838 寝屋川市八坂町13-18
TEL:072-822-3232 FAX:072-822-3400

医療法人一祐会 居宅介護支援事業所

居宅介護支援事業所の役割は介護を必要とする人が適切な支援を受けて自立して暮らせるよう、サポートすることです。

たとえば、入院生活を送っていた人が自宅に戻る場合、入院前と同じことができるとは限りません。日常生活動作などが低下している場合には、退院後も生活の質を落とさないためには介護サービスの利用が必要です。私たちはそんな人たちやご家族にはどんな支援が必要か、適切に評価してケアプランを立てたり、役所や事業者と話し合って調整したり、といった仕事を日々行っています。

地域の高齢化が進む中、非常にニーズが高い仕事ですが、今般のコロナ禍により、大きな転換点を迎えており、私たちもwithコロナの時代に適した業務のやり方を模索しているところです。

これまでは人に会うことが業務の柱でしたが、これからはリモートワークなど、人と対面しない働き方を実現する必要があります。もちろん、仕事のやり方を変えたからといって、パフォーマンスを落とすわけにはいかないので、デジタルの活用に加え、スタッフの意識改革を進めているところです。

まだまだ先が見えない状況ですが、時代が求めるサービスを提供できるよう、これからも邁進していく所存です。



寝屋川市地域経済活性化事業

アプリペイによるキャッシュレス決済に対するポイント還元

寝屋川市は、市内の店舗を利用した際にスマートフォンアプリのキャッシュレス決済で支払うと最大10%のポイントが付与するキャンペーンを実施します。

市はポイント付与にあたり、

約5億8000万円の予算を計上しています。



キャンペーンの目的

- 市内の消費喚起
- 新型コロナウイルスでダメージを受けた飲食店舗の支援
- 非接触のキャッシュレス決済推進による「新しい生活様式」への対応促進

キャンペーン期間

2020年10月～2021年3月

対象店舗

PayPay、d払い、auPAYで支払うと誰でもポイントが付与されます。1回あたりのポイント付与は最大1,000円、1か月で最大5,000円、6か月で最大30,000円になります。また、月ごとにアプリ決済の種類を変更して実施します。

問合せ先…寝屋川市 産業振興室 (担当:妹尾・森本)



9月4日(金)に寝屋川市と3社による協定締結式が行われました。

●寝屋川市 (広瀬慶輔市長、市川克美副市長、まちづくり推進部長)

コロナ禍において、市民生活の中に「非接触」という新しい習慣が根付くよう手助けができればと考えている。また、従来の商品券に加えて、より多くの市民に対する支援を行うため、この協定を活用して市民生活を支えていきたい。

●NTTドコモ: d払い (株式会社NTTドコモの執行役員 関西支社長 高本 寛氏)

キャッシュレス決済比率の向上に向け、既に加盟いただいている市内店舗での積極的な宣伝や加盟店舗数の拡大に向けた取り組みや、ドコモショップでのサポートを実施し、制度の普及、及び市内経済の活性化に貢献できればと考えている。

●KDDI: auPAY (KDDI株式会社 パーソナル事業本部 コンシューマ営業統括本部 コンシューマ関西支社長 倉田 聡之氏)

キャッシュレス事業を開始してから、さまざまな事業者と協力することで、利用者の増加を実現している。非接触やキャッシュレスに関する事業は今後もさらに拡大していくと考えられるので、協力して取り組んでいきたい。

●PayPay (PayPay株式会社 営業本部 関西 1 ブロック長 千葉 大輔氏)

さまざまな自治体とキャッシュレス決済に関する事業を実施しているが、より多くの市民、市内店舗、市を訪れる人たちに使ってもらえるよう、店舗に対する加入促進や既に加している店舗に向けたフォローにも取り組みたい。

期間が6か月と長期、アプリペイによるキャッシュレス決済で最大10%のポイントの付与は、他市には見られない取り組みです。また、11月からはシルバー世代を対象とした商品券事業を実施する予定です。



参照 寝屋川市ホームページ

寝屋川つーしん → <http://www.neyagawa-np.jp/cash-less/neyagawa-city/20200904.html>

号外NET寝屋川市 → <https://neyagawa.goguy.net.jp/2020/09/09/cashless-teikei/>